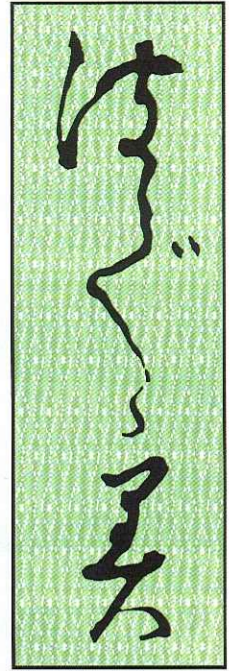


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江1丁目432番25 いづみ印刷株式会社



http://www.oita-pta.com/

3年連続県知事賞に

『広報つるおか』

佐伯市立 鶴岡小学校PTA



表彰をうける鶴岡小PTA広報部長



志村学県議会議長のあいさつ



講評を熱心に聞く参加者

第35回大分県PTA広報紙コンクールに、県内の小・中学校より131点の応募があり、4月5日の審査会で入賞48点を選ばれた。表彰式は、4月19日、県教育会館で行われ、約90名が出席した。

旬の話題を 読みやすいレイアウトで

表彰式では来賓・受賞校代表者が出席する中、富永大輔県P連会長(代理有松一郎県P連副会長)が「企画性・記録性をはじめ記事の読み易さやPTAの主体性が表されていることを基準に慎重に審査した。皆さんの力を合わせた広報紙づくりが、特色あるPTA活動を支え、会員の思い

を伝え広げる役割を担っている」とあいさつ。志村学県議会議長、野中信孝県教育長(代理法雲淳厚県教育庁社会教育課長)が祝辞を述べた。

よりよい紙面づくりのために

表彰式の後、帆足三郎審査委員長が次のように講評。▼年間を通してのシリーズも、PTA新聞が学校新聞になつていくところも、行事のお知らせに終わらせないよう工夫してほしい。

部員の思いを紙面にこめて

県知事賞受賞の佐伯市立鶴岡小学校広報部長は「今回3年連続の県知事賞受賞ということで嬉しく思っている。部員やアンケートに協力してくれた方々の思いをつなげた記事にしていくことを心がけた」と受賞の喜びを語った。

第35回 大分県PTA広報紙コンクール入賞校

- 県知事賞 「広報つるおか」 鶴岡小 (佐伯市)
県PTA連合会長賞 「あおがき」 (大分市) 大分大学教育福祉科学部附属中 「たかせ」 高瀬小 (日田市)
県議会議員賞 「だのはる」 (大分市) 大分大学教育福祉科学部附属小
県教育長賞 「あけの西」 明野西小 (大分市) 「とまち台」 渡町台小 (佐伯市)
県小学校長会長賞 「みよし」 三芳小 (日田市)
県中学校長会長賞 「さいき城南」 佐伯城南中 (佐伯市)
県広報教育研究会長賞 「津留小タイムズ」 津留小 (大分市)
大分合同新聞社賞 「城山」 佐伯小 (佐伯市) 「ふうれん」 川登小 (臼杵市) 「広報あさひ」 朝日小 (日田市)
OBS賞 「別保べっぼ」 別保小 (大分市)
TOSテレビ大分賞 「にしんし」 大在西小 (大分市)
OAB賞 「にしの台」 西の台小 (大分市)

優良賞 (順不同)

- 田染小、明野東小、上野堅田小、津久見小、津大
桃園小、滝尾小、鶴居小、豊府小、賀来小
種田中、西野中、明野中、東部中、種田中
高川中、原立小、木立小、有田小、五馬市小
荷揚町小、南大分小、下郡小、坂ノ市小、三重東小
威原小、藤原小、藤原小、東山幼中、日限小

おめでとございます



講評をする帆足審査委員長

新聞も見受けられた。記事写真は6:4ぐらいがよい。多ければ省いたりトリミングするなどの工夫を。▼見出しはうまくなっていると思う。以前は堅いものが多かったが最近柔らかくなってきた。字数としては8~11字がよい。短い見出しの中で気持ちが伝わるように。▼レイアウトなど基礎的なことを勉強しておくこと新聞づくりが楽しくなる。色々な機会を活用して技術の向上を。

お知らせ ☆第35回大分県PTA広報紙コンクール 優秀広報紙縮刷版 1冊1,000円で縮刷版を販売します。ご希望の方は、県PT事務局までお申し込み下さい。県内の各小・中・特別支援学校には市P連を通して1冊贈呈します。大分県PTA連合会事務局 ☎(097)556-9055

教師の学習指導のおかげです。...

新聞に見入る姿が見られた。式後は、記念撮影や他校の新聞に見入る姿が見られた。

久方振りに ネットを絡めて母校の4年生24名の前に立った。昨年に続いて命の授業だ。準備物は板書構成メモ、蜜柑一個、紙袋入りクッキー、暖簾、A4半切白紙のみ。なにに自分のこのゆとりは何?退職して15年。楽しくいい授業の成立を確信。▼クッキーは退塾の女子中学生手造りで可愛い紙袋入り。暖簾は「父さん母さんのおかげです/学校の先生のおかげです/友だちみんなのおかげです/お米や野菜のおかげです/着物やお靴のおかげです/社会ではたらく/皆さまのお陰さます/ありがとうございます/花園大室豊」朝夕数十年見続けている大好きなお陰様暖簾だ。▼新職務、特に新任の先生方は張り切っておられる筈だ。周囲には、ゆとりある人間力や専門技の授業のできる方(既教職に限らず)がたくさんおられる。校長の許可を得て、気楽に協力していただくことだ。知識やマニユアルだけでは人の育成はできない。生きていく人や自然に謙虚に見習うことが一番。幅のある人間教師を目指して欲しい。子どもと目線に立つというが、子どもと同レベルをいつてるのではない。老してはじめて子どもの心が見えてくる。「三歩下つて師の影を踏まず」?みんな踏まれない教師を目指しているでしょうか。又そういう教師を育てて下さい。それが命を大切に育つ子育てになる。▼今使っている鉛筆や消しゴム、筆箱も机も椅子も命があつて、命が犠牲にされてみんなが生きていくことがわかった。(授業感想文、漢字変換、原文の一部)無言の紙に描った字でピシッリ書いてあるのは、日頃の担任教師の学習指導のおかげです。

研究心北

審査員 帆足 三郎(委員長) 大分合同新聞文化センター元顧問 安部 崇夫 大分県広報教育研究会会長 松原 弘之 大分県教育庁教育改革・企画課主幹 岩尾 淳一 大分県PTA連合会「はくく美」顧問 富永 大輔 大分県PTA連合会会長 (敬称略)

審査方法・基準 5人の審査員が1人10点の持ち点で1次審査。集計をもとに審査員の協議による2次審査で各賞を決定する。 <基準> ①読みやすく、わかりやすく、すっきり ②年間のシリーズ物、企画物があるか ③広報紙の特色(運動会等の扱い) ④写真のバリエーション、トリミング ⑤地域の特徴が出ているか ⑥レイアウト、見出し、カットの整理力 ⑦誤字・脱字がないか 尚、入賞紙のうち10校が「全国小・中学校広報紙コンクール」に出品される。

# 刻もう “被災地を忘れないで”

## ～富永県P連会長が被災地視察を～

昨年3月11日の東日本大震災後、大分県PTA連合会では被災した多くの子どもたちのために、少しでも力になりたいという思いから「こは命の星」募金を開設して、一年が過ぎた。

各郡市PTA連合会を通し、各単位PTAの支援・協力により3月末現在約690万円の義援金が集まり、日本PTA全国協議会(日P)から被災地のPTA協議会に届けている。

その後の現地の様子や教育現場の今を、富永県P連会長が九州各県P連会長と共に視察を行った。



各県P連会長視察(右より3人目富永会長)

4月19、20、21日の3日間の視察は、仙台市P連会長の案内で、石巻・雄勝・女川・仙台、盛岡市P連会長の案内で、陸前高田・大船渡・釜石の市町村を訪ねた。

今回は、義援金などのように使われているか、また子どもたちが不自由な思いをしていないかが視察の目的である。義援金は、被災地の各県PTA協議会から単P(学校)に直接届けるようになっていて、一年以上経過した今でも学校は当時のままで、再建のメドも立たず土地と校舎も使えない状況。教育現場の今はプレハブ校舎や廃校になった学校、他学校に間借りして学校を再開している。義援金は学校ごとの判断で活用し、子どもに一番必要な物を購入するという形を取っている。

例えば、部活用品(プラスチックの楽器など)、図書の本といった学校生活には欠かせないものを購入している。今回



岩山壊しに頑張るお父さん

訪れた岩手県釜石市の唐丹小学校でも義援金によって本二千冊の一部が揃えられた。

**思う気持ちが力になる**

学校生活ではある程度の物が揃い、普通に近い生活をしているように見えるが、自分たちの学校を無くし、通いたくても通えない子どもたちの現状は決して普通ではない。

児童が健康で安全に楽しい学校生活を送れるように、父親が中心となった「親児の会」で校舎内外(周辺の側溝や竹林など)の環境整備に毎年取り組んできた。

今年度は、子どもたちの大好きな遊び場「セメントの岩山」が古くなり、空洞ができて安全の確保ができなくなったため「こは命の星」推進事業に申し込み、整備に取り組んだ。

環境整備で子どもたちの笑顔を

由布市立挾間小学校PTA 安部 和広P会長 児童数 485名

「こは命の星」推進事業 活動報告の「いのちを感じる活動」

ふれあえる活動の取り組み

まず、重機を使用しセメントの岩山を壊した後、土を盛り芝生を張った。芝生が根付かず試行錯誤を重ねた結果、土を盛り固めて見事に再生することができた。

「こは命の星」推進事業 活動報告の「いのちを感じる活動」

大喜びで遊ぶ子どもたちの姿を見ることができ、親児の会のメンバーも大変満足し、充実した活動となった。

世話役の甲下典志さんは、今後の課題として「定期的に体験活動は地域と一緒に」

体験活動は地域と一緒に

豊後高田市立田染中学校PTA 加藤 都素孝P会長 生徒数 27名

本校は富貴寺をはじめ、真木大堂、熊野磨崖仏などの文化財清掃や小中連携による地域のごみ拾いなど体験活動を継続している。また、障がい者施設「コスモス」とは年2回花植え交流活動を行い、文化祭にも招待している。さらに今年3月には、被災された東北地方の子どもたちにカブトムシを送った。地域に根ざしたボランティア活動や環境問題にも取り組んでいる。

環境整備の活動を続けていきたい。また、子どもたちや保護者同士、親子でふれあえる親子キャンプや登山など楽しい活動を計画して実践していきたい」と語った。

八反ずりで作業する生徒

八反ずりは、田んぼの雑草を抜く道具。稲と稲の間を前後に押し引きしながら前進し、表土を浅くかき廻して、歯車のような部分で田んぼに生えている雑草を根っこごと引き抜くというもの。昔は便利な道具で一日に八反分の草引きの作業ができたということから「八反ずり」という名前が付けられた。

地域の方から、昔の農業がどんなに大変かを学び実感した。他にも親子でグリーンカーテン作りに取り組んだ。加藤都素孝P会長は「子どもたちが取り組んでいる活動は、保護者として支援を惜しまず今後も協力したい」と語った。

「こは命の星」推進事業

富永県P連会長は「何かできることを一つずつ。被災地のことを伝えるのが私の仕事。何かしようと思う気持ちが力となるのでは、そして、子どもたちが地元で海水浴ができるようになった時にはじめて復興したと言えぬのではないか」と思いを語った。

### 街頭募金活動を実施

日本PTA全国協議会は、震災により孤児、遺児となった子どもたちのために公益信託基金「東日本大震災日本PTA教育援助基金」を設立。全国に61あるPTA協議会の心をひとつにして「心のきずな61キャンペーン」と題し、全国一斉募金活動



笑顔で募金協力する子ども

動に取り組んでいる。大分県PTA連合会でも3月24日、会長をはじめ理事ら約10名がトキハ本店前とJR大分駅前立ち、募金の協力を呼び掛けた。富永県P連会長は「全国のPTAが見守っているというメッセージを伝え、安心して勉強できる環境を届けた」と話した。

3月30日、離任式。式を進行して

数日前、離任式のことを伝えた直後、「進行は、先生ですか。先生たちはみな、離任するのだから、それは変だから、私にさせて下さい」と言ってきた。

本校は、閉校するので、この式は、自分たちで全て行うことを当たり前と思っていた私たち職員には、思いがけない子どもからの申し出であった。

この一年間は、あらゆる場面で「閉校」という事実をそれぞれにしっかりと受

### 新たなる出発

二十七日の「新たなる出発」に心からのエールを贈る。

国東市立豊崎小学校 教諭 石田 房栄

式終了後、子どもたちがいなくなった体育館に行くと、いつものように職員がイスがきれいに片づけられていた。「子どもたちのために」と、いつも協力、支えて下さった保護者、地域の姿がここに重なる。





**「あつたかたぐくむせむじのあま家庭と仲間の絆で築く笑顔あふれるPTA活動」**

別府市PTA連合会

各単位PTAがそれぞれ特色をだして活動し、互いに連携し、手をつなぎ、質の高い連合にと願い、PTA活動を実践しています。

**「きずなを築く 研修会を重ねて」**

活動として、まず、中学校区ごとに一年間研修を重ね、その成果を広める場として、午前中に全体会と講演会、午後5分科会で実践発表と討議をする指導者研修会を開催しています。その成果を持って昨年の九P研究大会北九州



交流を深めるPTA会員

別府市PTA連合会です。別府市P連の願いは、「子どものために」を合い言葉に、テーマは「あつたかたぐくむせむじのあま家庭と仲間の絆で築く笑顔あふれるPTA活動」です。

**親子で話そう!**

**家族のきずな 我が家のルール三行詩**

**【小学生の部】**  
 ありがとうその一言がうれしくて、また、がんばるよ、お手伝い(近藤優依/豊後高田市立草池小・5年)うちのお風呂の掃除当番、家族で交代でピカピカ日(河野太一/大分市立寒田小・6年)

**【中学生の部】**  
 お母さんと私! ホワイトボードでコミュニケーション(今村聖奈/日田市立北部中・1年)朝、学校に行くとき、母がいつも見送ってくれる、ついでさつきまで仕事だったのに(木村諭佑/日出町立大神中・3年)言葉にするのははずかしい、だから「うるさい」「うる

さい」と、いつているけれど、本当の意味は「ありがとう」(渡邊健五/日出町立大神中・3年)省エネ月間をつくったよ、たくさんのスイッチ、家族でチェック(安達祐実佳/九重町立飯田中・3年)家族でいつも一緒に、楽しくおしゃべり(一致団結 未来へGO!! (石崎ゆきな/九重町立飯田中・3年)

**【保護者の部】**  
 わがやはいつもジャンケン大会、ケーキを選ぶのも、布団のならば方も、5つの手のひら、5つの笑顔(小川由美/豊後高田市立草池小)ねえ、聞いて、夕飯作りのキッチン、今日の出来事、報告会(近藤陽子/豊後高田市立草池小)お父さんの転勤がきっかけで、来た「手伝い当番表。子ども達のおかげで、私も随分、楽

**第26回 日中友好 「青少年少女の翼」**

昨年、震災の影響により中止された、日中友好「青少年少女の翼」(日P主催)が3月26、31日の日程で行われた。

**充実した6日間**

杵築市立山香中学校 2年 和田 彩花

私は「青少年少女の翼」に参加できて本当によかったです。5泊6日間の中でたくさんのお話を学び、全国から集まった中学生と仲良くできて、すごく楽しかったです。中国の中学生と交流をしてみても、英語の上手さに驚きました。私からは全然話せませんでした。でも、この交流会の後に「もっと英語を話せるようになりたい」と、世界各国の人と話してみたいな」と、新しい夢ができました。そして、何より自分に自信ができました。知らない場所で、初めて会ったメンバーで6日間過ごすのは、こわかった



新たな夢を見つけた旅

たけど、自分から話しかけたら、仲良くなれたときのうれしさは忘れられません。万里の長城や故宮の見学、太極拳や水墨画の体験など、中国の文化や歴史にたくさんふれて、もっと中国に興味があり、もっと中国のことを知

**みんながながえる コーナー**

反抗期 どうしたらいいの? ②

**心のまどを開く「一筆啓上」!**

「ゆつたり感が置いてきぼりにされていた20年ほど前。「フロ」、「メシ」、「ネル」三語人間! 多忙感に打ちのめされ続けているサラリーマンが、帰宅後、妻と交わす三つの言葉。目まぐるしく変わる社会の動きと多様な価値観の中で、豊かな人間関係づくりが問われ続けています。特に、子育ての面では、今の子どもの特徴的な側面が浮きぼりにされ、各方面で話題となっています。

「おかあさんぶた、おかあさんブス、おかあさんバカ、おかあさん...、でもすぎ」(七りたくなりました。このような貴重な体験を、自分の将来に生かしてきたいです。この旅行を支えてくださった全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

**貴重な交流体験を得て**  
 2年 松尾 朋樹  
 ぼくは、この旅で一生の思い出となる貴重な体験ができました。その中でも特に印象深かったのが北京師範大学附属中学校の学生との交流会です。みんな英語を母国語のように話していました。ぼく自身は英語で会話することなどできないので、もっと勉強しなくてはならないと思います。お父さん、子どもたち...。(後藤孝一/豊後大野市立千歳小)男の子、果立っていきいのは、知ってるけどもう少しだけ、ギョッとさせてね。(中島由香/日田市立桂林小)がんばる君の後には、家族全員、応援団(サポーター)。(信岡ひろみ/日田市立上津江小)

「ゆつたり感が置いてきぼりにされていた20年ほど前。紙」のひとつの作品です。子どもたちは、身近な様々の出来事に興味、関心を寄せ、その一つ一つに、自分を重ね合わせ、自分を磨いています。無数の子どもたちの姿を合わせ鏡に写し出して受け止めたものです。まずは、後ろ姿を見届けるくふうとして、短い手紙交換から。「一筆啓上!」子どもの心の窓を開く「短いお手紙」ポストをはじめは、いかが? みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

☆今年度の「はぐく美」編集スタッフを紹介します。 檜山千鳥 三重野陽子 丸山真里 加来あや(新) (顧問) 岩尾淳一 読みやすく親しまれる紙面に! ご愛読をお願いします。 ▼表彰を受ける広報部員さんの顔に晴れやかな達成感。自身に置き換え、また新たな気持ちで今年度も頑張ります。 ▼被災した子どもたちの現状を聞き、私にも何かできることがあるはず...。少しでも力になれればと感じた。 ▼見えにくい心の部分をどのように育んでいくか...。人との関わり大切さを改めて考えさせられた。 ▼どれも力作の三行詩。文章も、親子の絆も、作り上げるのは苦勞の連続。今年もご応募おまちしております。



世界遺産に感激

た。交流会では中国語で合唱しました。中国語の発音は非常に難しく、練習は大変でした。

▶ 5月31日 (木)	定期総会	原 P 情報
▶ 6月15日 (金)	幹部研修会	
▶ 9月8日 (土)	全単位PTA 会長研修会	

立ちどまらない保険。 MS&AD 三井住友海上

**三井住友海上の安心**

**GK**

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2  
 www.ms-ins.com